

全国障害者問題研究会北海道支部

第46回支部学習会開催要項

今日、教育、そして福祉の「現場」は、誰にとっても“安心・安全な場所”になっているでしょうか。子どもやそこを利用する障害当事者はもちろんのこと、実践に取り組む教師や支援者、そして家族にとっても「現場」に対する安心と信頼が不可欠ですが、それが揺らぐ事象が続いています。今日的課題を確認し、「みんなのねがい」を語り合い、前向きな“これから”を展望します。今年も会場への参集とオンラインを併用した開催方法となっておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

○日 時:2025年9月14日(日)10時～16時

○会 場:北海道高等学校教職員センター【オンライン併用】

地下鉄東西線・西11丁目駅から徒歩3分(札幌市中央区大通西12丁目)

○主 催:全国障害者問題研究会北海道支部

○定 員:会場70名、オンライン100名(※申し込み順)

○参加費:会員500円、非会員1,000円、障害当事者・学生500円

○当日日程

9:30 10:00		12:00		13:00～16:00	16:10～17:00
受付	開会	記念講演		分科会	支部総会
		発達保障ってなに？ —実践に活かすキーワード— 藤野 友紀さん (札幌学院大学)		①教育 ②福祉	
		休憩			

※オンライン配信は、記念講演のみとなります。

アフター企画 映画「帆花」上映会

2025年9月15日(月・祝) 札幌市教育文化会館4階講堂(北1条西13丁目)

① 10:30～12:00 トーク 12:10～12:50

② 14:00～15:30 トーク 15:40～16:20

③ 17:00～18:30 トーク 18:40～19:20

○トークは事前収録による母親の西村理佐さん、國友勇吾監督のほか、指定者による対面でのスピーチを予定しております。

○札幌映画サークル会員、全障研会員、支部学習会参加者 1,000円(全障研前売券)

○一般前売 1,300円 当日 1,500円 ※満席の場合は当日券を販売いたしません。

○後援(申請中を含む) 北海道 北海道教育委員会
社会福祉法人北海道社会福祉協議会
(公財)日本教育公務員弘済会北海道支部

記念講演 10時～12時

「発達保障ってなに？—実践に活かすキーワード—」

藤野 友紀さん(札幌学院大学人文学部人間科学科准教授)



●藤野友紀さんからのメッセージ(講演の概要)

みなさんは発達保障や発達保障論に対してどのようなイメージをお持ちですか？もし「発達を保障してあげる」とか「できないことをできるようにする」といったイメージを抱いているならばそれは大きな誤解です。発達保障論の中核にあるのは、「発達の主体は子ども」「教育は子どもの“思い”に“思い”を寄せるもの」という思想だと私は思っています。発達保障論は粘り強い実践と真摯な振り返りの積み重ねから練り上げられてきたもので、異なる現場にいる人たちが互いの実践について深く共有し語り合うための言葉と視点を提供してくれます。

今回は二通先生から貴重な機会をいただきました。はじめにお断りしておく、私は発達保障論を完全に理解していると胸を張って言えるわけではありません。でも皆さんと共に学ぶ中で、私自身もさらに理解を深められたらと願っています。当日は、発達保障論の中でも特に魅力的かつ重要なキーワードを中心に、実践の中で子どもをどう理解していくのか、教育をどう考えていくのかに迫りたいと思います。具体的なキーワードとして、「心の杖」「ヨコへの発達」「発達の抵抗」「発達の連関」「間のあるかわり」「子どもの発達要求(問題行動と発達要求)」などを予定しています。また、発達保障の考え方に照らして、IQを指標に子どもの発達を捉えることの陥穽についても考えてみたいのです。

●主催者から一言

私の問題関心の基底にあるのは、今年の教育分科会でも多少なりとも触れることになる特別支援学級における不適切指導(教室マルトリートメント)であり、昨年の福祉分科会で取り上げた施設における障害者虐待です。これらは、“現場における発達保障論の不在”が招いたことだといえます。藤野先生は、自著で「ものさし的な見方」(何歳ごろに何ができるかという標準的発達をものさしとして理解しようとする立場)の問題を指摘し、返す刀で人間の内面を知る「めがね」を手に入れようと呼びかけています。これは私の印象論にすぎませんが、実践現場では、余裕のなさから「ものさし的な見方」についてさえ学ぶ機会に乏しいのではないかと疑念もぬぐえません。私はこのような現状の打開において、発達保障論の思想と実践のヒントを多くの方に届ける営みが必要だと感じています。その際、発達保障論のキーワードを手がかりにすることでその内容が伝わりやすくなるのではないかと考え、藤野先生に標記演題による講演を依頼したのです。発達を実践的に学び、内面理解をふまえた実践を展開していきましょう。

(全障研道支部副支部長 二通 諭)

●藤野友紀さんのプロフィール

1973年、香川県生まれ。京都大学、同大学院で学ぶ。専門は、発達心理学、保育学。主な著書として、単著『発達を学ぶ 発達に学ぶ 誕生から6歳までの道すじをたどる』、共著『知ろう 語ろう 発達のこと』、共著『新版 教育と保育のための発達診断(下) 発達診断の視点と方法』(いずれも全障研出版部)がある。

分科会 (13:00～16:00)

分科会①【教育】

「特別支援学級が抱える困難から特別支援教育実践のあり方を問う」

特別支援学級教員による不適切指導、特別支援学級教員が心身の不調などによって離職・休職に至るといった、特別支援学級が抱える困難の把握と問題解決に向けた取り組みは喫緊の課題です。2008年度の特別支援学級児童生徒数6920人に対して、2024年度は20360人であり、ほぼ3倍の伸びです。特別支援学校の場合は、2008年度の4591人に対して、2024年度は5960人ですが、2020年度の6013人に比して減少しています。ちなみに2020年度の特別支援学級児童生徒数は16064人であり、特別支援学級に在籍している児童生徒数が右肩上がりであることは明らかです。特別支援学級が量的増大しているのに対して質的充実が追いつかないという実態にあることは容易に想像できます。また、2000年代後半から、関わり方に細かい配慮が必要な自閉症や情緒障害の児童生徒数が知的障害の児童生徒数を大幅に上回るようになり、子ども理解の力がかつてなく求められています。

以下は、ここ1～2年で耳にするようになったエピソードです。

- ①「教室マルトリートメント」ともいえる不適切な指導による子どもの困難が新聞等で報道されるようになりました。
- ②チームを組む同僚教員の不適切な指導を目にすることによって、心身に変調をきたし、学校に行けなくなったという教員からの訴えが目立ってきました。
- ③子どもの暴言や逸脱行動、いわば子どもが差し出す「行動障害」、換言すれば「問題行動」に耐え切れず、学校に行けない、職を辞すという教員の例を聞くようになってきました。

そのほか、長い教員歴をもつ教員でも、教材の準備や保護者対応が適切にできず、他の教員への負担が一層増しているという訴えも聞くようになってきました。本分科会では、通常学級担任、特別支援学校担任など、さまざまな来歴をもつ特別支援学級教員から話題提供をしていただき、参加されたみなさまとの議論をとおして上記の課題に迫ります。

■レポート報告

- ・いんげんまめこ さん（公立小学校特別支援学級教員）
「みんなで紡ぐ大切な時間」
- ・おんたんろくたん さん（公立小学校特別支援学級教員）
「自分もクラスもがちゃがちゃ、ぐちゃぐちゃ。どうしようもない」
- ・小野島 直彦 さん（公立中学校特別支援学級教員）
「世の中のリアルに特別の支援を必要としている子どもたちはどう向き合えばいいのかー教師の役割って何？」

■共同研究者

二通 諭さん(札幌学院大学名誉教授) 齊藤 真善さん(北海道教育大学札幌校准教授)
市橋 博子さん(道立特別支援学校教員)

分科会②【福祉】

「今こそ“発達保障”の出番」

昨年、全国で医療機関や介護事業所の倒産と休廃業が過去最多を記録、わたしたちの今とこれからの未来にとってなくてはならない病院や施設がどんどん潰れています。障害者福祉事業所も例外ではなく、いのちと暮らしを支える貴重な資源が次々と消えています。その大きな社会的要因は、何と言っても医療や介護・福祉の報酬基準の低さにあります。新型コロナウイルスの感染拡大もなお影響し、さらに物価高騰で事業運営が成り立たなくなっているのです。

障害者自立支援法の成立から20年。事業所での不正や虐待などが相次ぐなかで、支援の質が問われ続けてきましたが、今こそ障害のある人と家族の願いに応える発達保障実践の価値が真価を発揮する時代を迎えています。

今年の福祉分科会では、報酬改定や人材不足など厳しい事業所運営に直面しつつも、障害のある人たちへの発達の共感と権利の内実を大切にしながら、日々の実践にとりくんでいる皆さんに参加いただき、レポート報告と交流を通して、実践の到達と課題を共有しながら、明日への展望を拓く分科会にしていきたいと考えています。

■レポート報告

- ・馬場 大和さん（社会福祉法人あかしあ労働福祉センター）
「障害の重い(多くの支援を必要とする)人たちへの発達保障をめざす実践」(仮)
- ・山田 大樹さん（社会福祉法人ホープ）
「障害のある人の生活の質を高める実践」(仮)
- ・発表者未定（チャレンジキャンパスさっぽろ）
「障害のある人の権利保障をすすめる地域での実践と運動」(仮)

■共同研究者

北村 典幸さん(旭川市立大学教授) 村田 修さん(社会福祉法人 浦河べてるの家 監事)

会場参加／オンライン参加ともに 事前の申し込みをお願いします。

参加申し込みの方法

次のどちらか1つを選び、参加申し込みをお願いします。

① Peatix(ピーティックス)を利用する

<https://peatix.com/event/4410757>

※上記 URL(右のコードも同じ)にアクセス後、画面右側にある、チケットを申し込むをクリックして、その後の指示に従ってください。



② メールで申し込む → zensyoken54@gmail.com

※ メールで参加申し込みをされる際には、

- ①お名前、②所属、③メールアドレス、④参加する企画(記念講演・分科会①or②)、
⑤会場参加またはオンライン参加どちらかの5点を記載してください。

参加費の支払い方法

次の3つから1つを選び、参加費の支払いをお願いします。

① Peatix からクレジットカードまたはコンビニ ATM で参加費を支払う。

→Peatix の画面で指示に従ってください。

② 当日、会場にて現金で支払う。

③ 郵便振替で払う。郵便振替:02720-7-16858 全国障害者問題研究会北海道支部 【会員 500 円、非会員 1,000 円、障害当事者と学生 500 円】

オンラインでの参加を希望される方へ

・オンライン会議システム、Zoom を使用して参加することができます。

・接続先の URL 等は、申し込み時に入力していただいたメールアドレスにお知らせします(当日の5日程度前まで)。

・あらかじめ、お手元のパソコン、タブレット等に Zoom のアプリを入れておいてください。

※ネット環境等によっては、音声や映像に不具合が生じる可能性があります。予めご容赦ください。

○お問い合わせ

全国障害者問題研究会北海道支部 支部学習会事務局

メール:zensyoken54@gmail.com